

我孫子市布佐中学校区の学校の在り方に関する提言書（案）

令和6年1月22日

我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会

目次

1	概説	1
2	はじめに	1
	(1) 我孫子市の現状	1
	(2) 児童生徒数の推移	2
	(3) 学校施設の現状	2
	(4) 布佐中学校区の教育の現状	2
3	検討内容のとりまとめ	3
	(1) ① 3校とも規模を適正化し現在地で建て替える	4
	(2) ② 隣接する布佐小学校と布佐中学校を一体型小中一貫校とし、布佐南小学校は規模を適正化し現在地で建て替える	4
	(3) ③ 3校を一体型小中一貫校に建て替える	4
	(4) 検討内容のまとめ	5
4	おわりに	5
5	検討委員会概略	6
	(1) 委員名簿	6
	(2) 各回概要	7
	(3) 布佐中学校区検討の経緯	8

1 概説

校舎の老朽化や児童生徒数の減少等の課題に対し、今後の布佐地区の児童生徒にとって最適な学習環境について検討するため「我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会」を設置しました。本検討委員会では、現状の教育課題を解消し小中一貫教育をより一層推進していくために3パターンの施設形態を立案し比較検討しました。

本提言書は、3パターンそれぞれにメリットデメリットがあるものの、「3校を施設一体型小中一貫校とする」方向性がより望ましいと考え、これを提言するものです。

2 はじめに

変化の激しい現代社会において、子どもたちの「生きる力」を育む学校教育への期待と重要性は一層増えています。技術の進歩は目まぐるしく、簡単に世界中の情報に触れられるようになりましたが、大量の情報の中から必要な情報を取捨選択し、自らの知識や経験をもとに主体的に活用して「何ができるか」が問われるようになっていきます。また、世界中の多様な価値観との交流や異文化理解が求められる一方、少子化により地域や学校の児童生徒数が減少し、子どもたちに最も近い場で多様なものの見方や考え方に触れることが難しくなるなど、学びの多様性の在り方が学校教育の課題ともなっています。

我孫子市では、子どもの学びの保障と環境変化に対応するため、「我孫子市の児童生徒数の現状と今後」および「国の基準」を基に「学校適正規模」を設定しました。布佐中学校区は、この適正規模基準において「速やかに検討する」段階に入りました。

そこで、布佐中学校区の子どもたちの最適な学習環境の検討のため、令和4年7月に「我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会」が組織されました。本検討委員会では「布佐中学校区の学校の規模及び配置の適正化に関すること」「布佐中学校区の学校の小中一貫教育の推進に関すること」について議論を重ね、この度、布佐中学校区の学校の在り方の方向性に関する提言を取りまとめるに至りました。

この提言書が、布佐中学校区の子どもたちにとって最適な学習環境の実現に貢献し、我孫子市の更なる教育の充実を図るための指針となることを祈念します。

(1) 我孫子市の現状

我孫子市は、千葉県北西部、都心から30km圏に位置しています。面積43.15km²の市域は南北に約4km、東西約14kmと細長く、標高20m前後の台地と周囲の低地で形づくられた馬の背状の地形をなしています。昭和30年4月に我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町となり、昭和45年7月に市制をしました。北側に利根川を、南側に手賀沼を臨む豊かな水と緑に恵まれ、都心からも常磐線で35分の近距離にある

ことから、首都圏へ通勤する人々の住宅地としての役割が大きくなっています。

また、人口の推移では、平成 23 年の 136,217 人をピークに減少局面に入り、令和 5 年 4 月 1 日現在では 130,959 人となりました。令和 5 年の人口は、ピーク時の平成 23 年と比べて、5,258 人(3.9%)減少しています。平成 22 年以降の年齢別人口をみると、65 歳以上の高齢者人口は増加の一途をたどる一方で、生産年齢人口、年少人口は減少を続けています。

(2) 児童生徒数の推移

我孫子市には小学校 13 校、中学校 6 校があり、令和 5 年 5 月 1 日現在 8,445 人の児童生徒が就学しています。市内の児童生徒数は、昭和 45 年の市制施行以来、増加の一途をたどり、昭和 58 年度に 19,253 人でピークを迎えました。その後減少に転じ、平成 14 年度にはピーク時の約半数の 9,568 人まで減少しました。その後、市内西側地区の大規模集合住宅の建設により、一時的に増加に転じ、平成 23 年に 10,627 人まで増加しましたが、その後再び減少に転じ、現在に至っています。今後も市内の児童生徒数は、減少傾向が続くことが予想されています。

(3) 学校施設の現状

令和 2 年 3 月策定の「我孫子市学校施設個別施設計画」によると、市内の学校施設(計 145 棟、延床面積 13.7 万㎡)のうち、築 30 年以上の建物が 91%(127 棟、12.5 万㎡)であり、老朽化が進んでいることがわかります。特に建設が集中しているのが昭和 50 年から昭和 56 年で、この 7 年間に延 101 棟 8.3 万㎡を整備しています。今後、これらが一斉に改築・改修の時期を迎えることになるため、費用の平準化を検討する必要があります。

布佐中学校区の建築年数は、布佐小学校が昭和 50 年(令和 6 年現在で築 49 年)、布佐南小学校が昭和 58 年(同築 41 年)、布佐中学校が昭和 55 年(同築 44 年)となっており、「躯体以外の劣化状況」として「広範囲に劣化」と評価されている項目が多く、「早急に対応する必要がある」となっている項目も見受けられます。

(4) 布佐中学校区の教育の現状

市内東側にある布佐地区には布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校があり、2つの小学校から中学校へ進学しています。布佐小学校と布佐南小学校は成田線を挟んで南北に学区が分かれており、北側の布佐小学校区は古くから町が発展していた地区、南側の布佐南小学校区は布佐平和台を中心とした比較的新しい住宅が並ぶ地区です。

我孫子市では小学校から中学校への義務教育 9 年間の学びを一貫して行う「小中一貫教育」を全市的に推進しており、とりわけ布佐中学校区は市内で最も早い平成 26 年度から先進的に小中一貫教育に取り組んでいます。

布佐中学校区では、小学校と中学校の交流や地域学校協働活動が盛んであり、小中共同で開発した「布佐カリキュラム」による特色ある学習が展開されています。

また、我孫子市では児童生徒数の減少や学校規模の不均衡等の現状を鑑みて、学校適正規模を設定しています。基準としては小学校が各学年2～4学級、中学校が各学年3～8学級としていますが、布佐小学校と布佐南小学校は全学年1学級、布佐中学校は全学年2学級であり、いずれも基準を下回っています。このため、布佐中学校区は適正規模について検討段階にあるものとして位置付けられています。

その中で次のような教育課題があり、これらを解決するよりよい学習環境を検討する必要があります。

ア 校舎の老朽化により建替え等の必要がある。

→ 現行校舎の規模は昭和50年代のものであり、現在の児童生徒数や今後の少子化に適した規模にする必要がある。また、現在校舎の位置はハザードマップで浸水地区になっているものがあり、建替え時の立地に影響がある。

イ 児童生徒数の減少により我孫子市で定める学校施設個別施設計画では、適正規模を下回り、布佐小学校、布佐南小学校ともに全学年単学級になっている。

→ 単学級の場合、クラス替えがないため人間関係が固定化しやすく、人間関係でつまずいた際にとれる対策に限りがある。また、教員配置数が少なく、多くの目で児童生徒を見守ることが難しい。学習準備等担任が一人で行うことになるため、学年で相談、分担ができず負担が大きい。

ウ 小中一貫教育の推進として布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の合同行事などを行っているが、物理的に校舎が離れていることにより制約や限界がある。

→ 合同行事の日程調整が必要となり、児童生徒の移動に時間がかかる。教員同士の交流にも時間を要し、小中学校間の情報共有が容易ではない。

3 検討内容のとりまとめ

学校の在り方については、子どもたちの教育環境を最優先に考えること、学校と地域との連携を考えること、将来の児童生徒推計を見据えて考えることを重点においています。

検討に際しては、前述ア～ウの教育課題を解決するために「小中一貫教育の推進」と「減少する児童生徒数に適正化した新しい学校施設」を考えていく必要があります。そこで、本検討委員会では今後検討すべき学校施設として次の3つのパターンに大別し、それぞれのメリットデメリットについて比較検討しました。

① 3校とも規模を適正化し現在地で建て替える（各校が分離したまま、現状と同様に小中一貫教育を推進する）

② 隣接する布佐小学校と布佐中学校を一体型小中一貫校とし、布佐南小学校は規模

を適正化し現在地で建て替える（布佐小学校と布佐中学校が一つの校舎になり、布佐南小学校は分離した状態で小中一貫教育を推進する）

③ 3校を一体型小中一貫校に建て替える（3校すべてが一つの校舎になる）

これら3つのパターンを比較検討するため、検討項目の整理を行い、学校に関わる人々からみた視点として「児童生徒」「教職員」「保護者」「地域」「その他」と5つの視点に分け、さらに各視点内に小項目を設定してそれぞれのメリットデメリットを確認しました。この比較検討の内容については、別紙資料2「検討視点と施設形態のメリットデメリット表」をご確認ください。

詳細は資料によりますが、3つのパターンそれぞれについてまとめると、次のとおりです。

（1） ① 3校とも規模を適正化し現在地で建て替える

メリットとして、従来から環境を変えることなく学ぶことができる、通学距離が均等化されていることなどが挙げられます。

デメリットとして、現在の小中一貫教育推進に係る諸課題が残ったままであることが挙げられます。

そのため、今後の小中一貫教育の推進については、各校の連携をより一層密にし、以上の工夫が求められます。

（2） ② 隣接する布佐小学校と布佐中学校を一体型小中一貫校とし、布佐南小学校は規模を適正化し現在地で建て替える

メリットとして、布佐小学校と布佐中学校の一体型一貫校では9年間をとおした学習指導や異学年交流などが行えること、小学校教員と中学校教員の情報交換が行いやすくなることなどが挙げられます。

デメリットとして、分離のままである布佐南小学校では、現在の小中一貫教育推進に係る諸課題が残ったままであること、布佐南小学校出身者が中学校段階から合流した際に人間関係や生活環境の変化で問題が生じる可能性があることが挙げられます。

そのため、特に分離状態の布佐南小学校との連携を密にし、一体型一貫校の児童と格差が生じないような工夫や、地域への丁寧な説明と対応などが求められます。

（3） ③ 3校を一体型小中一貫校に建て替える

メリットとして、4-3-2制など特色ある教育課程を組めるようになること、小学校段階から2クラスになることで人間関係の更新や多様な価値観に触れる機会が増えること、9年間をとおした学習指導や生徒理解がしやすくなることが挙げられます。

デメリットとして、通学距離がのびる場合があること、特別教室や校庭の共有に調整が必要になること、学校配置の変更により地域防災に影響があることなどが挙げられま

す。

そのため、スクールバス運行による通学のサポートや、地域への丁寧な説明と対応などが求められます。

(4) 検討内容のまとめ

3つのパターンについてはそれぞれメリットデメリットがあり、一意に決定できるものではありません。しかし、本検討委員会では、今後の布佐地区の小中一貫教育をより一層推進し、子どもたちの学習・生活環境をより良いものとするため「③ 3校を一体型小中一貫校へ」とするのが良いと考え、本提言とします。

4 おわりに

本検討委員会では2年にわたり、布佐中学校区の学校の在り方について、学校の規模及び配置の適正化に関すること、小中一貫教育の推進に関することを大きな柱として、3つのパターンを比較検討し、それぞれメリットデメリットについて検討を重ねてきました。この検討の結果、「一体型小中一貫校」の方針を提言する運びとなりましたが、一体型小中一貫校の新設にはまだまだ課題も多く残っています。通学にスクールバスを運行するのであれば、その運行範囲やスケジュール等を検討する必要があります。学校を一つにして新設するのであれば、残った現校舎はどうするのか、有事の際の避難所はどうなるのかなど地域コミュニティや防災面での問題が新たに生じます。

我孫子市及び我孫子市教育委員会においては、本提言を踏まえ、布佐地区の児童生徒にとってよりよい学習環境となるよう進めていくと共に、保護者や地域の願いを汲み取った丁寧な対応をしていただくようお願いいたします。

5 検討委員会概略

(1) 委員名簿

選出区分	氏名	備考
布佐中学校区学校長	小林 道治	
布佐中学校区学校長	佐々木 祐子	R4年度 谷口 育男
布佐中学校区学校長	鈴木 伸樹	R4年度 戸塚 美由紀
布佐中学校区の学校運営協議会代表	鈴木 治男	
布佐中学校区の学校運営協議会代表	駒場 アサ子	
布佐中学校区の学校運営協議会代表	篠崎 和彦	副委員長
児童又は生徒の保護者代表	志賀 和仁	
児童又は生徒の保護者代表	落合 妥香	
児童又は生徒の保護者代表	比江嶋 眞友巳	
まちづくり協議会代表	松島 紀	
まちづくり協議会代表	山本 英雄	
学識経験者	田中 聡	委員長

(2) 各回概要

令和4年7月25日	令和4年度第1回	<ul style="list-style-type: none">・検討委員会趣旨説明・令和2、3年度の経緯説明
11月18日	(先進事例視察)	<ul style="list-style-type: none">・市川市立塩浜学園視察
12月19日	第2回	<ul style="list-style-type: none">・視察報告・施設形態と小中一貫教育について説明
令和5年2月24日	(現状視察)	<ul style="list-style-type: none">・布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の現状視察
3月22日	第3回	<ul style="list-style-type: none">・視察報告・検討視点、項目の整理
5月29日	令和5年度第1回	<ul style="list-style-type: none">・検討視点と施設形態のメリットデメリットについて（児童生徒視点）
7月10日	第2回	<ul style="list-style-type: none">・検討視点と施設形態のメリットデメリットについて（教職員、保護者・地域視点）
9月12日	第3回	<ul style="list-style-type: none">・検討視点と施設形態のメリットデメリットについて（その他視点）
11月13日	第4回	<ul style="list-style-type: none">・検討視点と施設形態のメリットデメリットについて（最終確認）・提言書素案確認
令和6年1月22日	第5回	<ul style="list-style-type: none">・提言書最終確認、承認

(3) 布佐中学校区検討の経緯

○令和2年度

・布佐中学校区の適正規模と今後のあり方について、保護者・地域住民・学校関係者に対しアンケートを実施（実施期間：R2.12月～R3.1月）。

※コロナウイルス感染症拡大のため、説明会の開催ができず、アンケートのみ先行実施となった。

○令和3年度

布佐中学校区の適正規模と学校のあり方について、保護者・地域住民の理解を深めるとともに、率直な意見を聴く場として説明会を開催。

学校施設個別施設計画、学校の適正規模とアンケート報告、検討委員会の設置、小中一貫教育等の説明、質疑、応答。

令和4年度に検討委員会を設置する旨を説明。

回数	対象者	日時	会場
①	布佐小学校 保護者	7/17（土） 10:00～11:30	布佐小学校 体育館
②	布佐中学校 保護者	7/17（土） 13:30～15:00	布佐中学校 1F 多目的室
③	布佐南小学校 保護者	7/18（日） 10:00～11:30	布佐南小学校 体育館
④	布佐小学校区 地域住民	11/27（土） 10:00～11:30	布佐小学校 体育館
⑤	布佐南小学校区 地域住民	11/27（土） 13:30～15:00	布佐南小学校 体育館

・令和4年3月の定例教育委員会で、我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会設置要綱が承認、制定。

○令和4年度

・各団体に検討委員会委員の推薦を依頼し、委員選出。6月28日開催の定例教育委員会にて委員委嘱を承認。

・第1～3回会議および市川市立塩浜学園、布佐中学校区の3校の視察を実施。

○令和5年度

・校長人事により、委員2名の交代

- ・第1回～第5回会議を実施
- ・本提言書の提出

資料

- ・児童生徒数推移、児童生徒数の将来推計
- ・「検討視点と施設形態のメリットデメリット」表
- ・布佐中学校区 小中一貫教育グランドデザイン
- ・我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会設置要綱
- ・令和2年度実施布佐中学校区「学校の適正規模に係るアンケート」集計結果